

各関係機関長 殿

岡山県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

病害虫発生予報第7号を下記のとおり発表したので送付します。

令和4年度病害虫発生予報第7号

令和4年9月29日
岡 山 県

予報概評

作物名	病害虫名	発生時期	発生量
水 稲	トビイロウンカ	—	多
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	やや多
果 樹	カメムシ類	—	やや少
キュウリ	褐斑病	—	並
キュウリ・ナス	ミナミキイロアザミウマ	—	並
アブラナ科野菜	ハクサイ白斑病	—	やや少
	ハクサイべと病	—	並
	軟腐病	—	並
	黒腐病	並	並
	コナガ	—	並
	ヨトウガ	—	並
	アブラムシ類	—	やや多
	モザイク病	—	並
	ハスモンヨトウ	—	やや多
	ハイマダラノメイガ	—	並
オオタバコガ	—	やや多	
キ ク	ナミハダニ	—	やや多
	オオタバコガ	—	やや多

1. 普通作物

(水稲)

1) トビイロウンカ

予報内容

発生量 **多**

予報の根拠

ア. 9月21～22日の巡回調査(中南部地帯)における発生ほ場率は33.3%で、
平年(22.9%)より高かった

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほ
ぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和4年度病害虫発生予察注意報第3号(9月21日発表)参照。

(ダイズ)

1) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,199頭
で平年(2431.2頭)より多かった。

イ. 9月1～5日の巡回調査における白化葉(被害葉)の発生圃場率は26.5
%で平年(13.7%)より高かった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほ
ぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和4年度植物防疫情報第4号(9月9日発表)参照。

2. 果樹(全般)

1) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における9月1～5半旬の誘殺数は、チャバネアオカメム
シは15頭で平年(75.6頭)より少なく、クサギカメムシは2頭で平年(3.5
頭)並、ツヤアオカメムシは56頭で平年(99.9頭)よりやや少なかった。

防除上の参考事項

ア. 9月下旬以降主要種はツヤアオカメムシである。

3. 野菜

(キュウリ)

1) 褐斑病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 9月16日の巡回調査によると発生圃場率は100%で、平年(89.3%、過
去10年のうち7年間は100%)並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発病をやや助長する条件である。

(キュウリ、ナス)

1) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

(アブラナ科野菜)

1) ハクサイ白斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると発生圃場率は18.2%で、平年(26.4%)よりやや低かった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 秋作では生育中期から結球期に初発生することが多いので、初期防除を徹底する。

2) ハクサイべと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると発生圃場率は9.1%で、平年(9.6%)並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病を助長する条件ではない。

3) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると、ダイコンでは発病圃場率は14.3%で平年(23.4%)よりやや低かった。ハクサイでは発生を認めず、平年(1.3%、過去10年のうち9年間は0%)並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病をやや助長する条件である。

4) 黒腐病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月20日の巡回調査によるとキャベツでは発生を認めず、平年（3.7%、過去10年のうち9年間は0%）並、ハクサイでは平年同様発生を認めなかった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並みとされており、発病をやや助長する条件である。

5) コナガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は2頭で、平年（2.0頭）並であった。

イ. 9月16、20日の巡回調査によるとダイコンでは発生圃場率が16.7%で平年（44.7%）よりやや低く、キャベツでは0%で平年（6.0%）並、ハクサイでは0%で平年（1.0%）並であった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

6) ヨトウガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

7) アブラムシ類とアブラムシ伝搬性モザイク病

予報内容

発生量 アブラムシ類 やや多
モザイク病 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の黄色水盤における9月1～5半旬の飛来数は4,256頭で平年（951頭）より多かった。

イ. 9月16、20日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が16.7%で平年（5.8%）よりやや高く、キャベツでは0%で平年（2.5%）並、ハクサイでは0%で平年（1.0%）並であった。

モザイク病は、ダイコンでは発生を認めず、発生圃場率は平年（13.7%）よりやや低く、ハクサイにおいても発生を認めず、発生圃場率は平年（0.9%）並であった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

8) ハスモンヨトウ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は4,199頭で平年（2,431頭）より多かった。

イ. 9月16、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほ

ば平年並とされており、発生をやや助長する条件である。
防除上の参考事項

ア. 令和4年度植物防疫情報第4号（9月9日発表）参照。

9) ハイマダラノメイガ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると発生量は平年並であった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

10) オオタバコガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は13頭で、平年（1.6頭）より多かった。

イ. 9月16、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

4. キク

1) ナミハダニ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 9月16、20日の巡回調査によると発生圃場率は16.7%で、平年（5.7%）よりやや高かった。

イ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

2) オオタバコガ

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける9月1～5半旬の誘殺数は13頭で、平年（1.6頭）より多かった。

イ. 9月16、20日の巡回調査によると、発生量は平年並であった。

ウ. 9月22日発表の季節予報によると、10月の気温は平年より高く、降水量はほぼ平年並とされており、発生をやや助長する条件である。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、
<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

